

平成26年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年6月5日

上場会社名 ティーライフ株式会社

上場取引所 東

コード番号 3172 URL <http://www.tealifeir.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 植田 伸司

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営企画部長 (氏名) 鈴木 守

TEL 0547-46-3459

四半期報告書提出予定日 平成26年6月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年7月期第3四半期の連結業績(平成25年8月1日～平成26年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年7月期第3四半期	4,617	9.6	315	30.0	329	29.8	186	31.6
25年7月期第3四半期	4,213	—	242	—	253	—	141	—

(注) 包括利益 26年7月期第3四半期 182百万円 (△6.0%) 25年7月期第3四半期 194百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年7月期第3四半期	43.93	—
25年7月期第3四半期	33.38	—

(注) 当社は、平成25年7月期第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年7月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭	円 銭	
26年7月期第3四半期	4,425	—	3,606	81.5	848.67	—	—	
25年7月期	4,328	—	3,521	81.4	828.70	—	—	

(参考) 自己資本 26年7月期第3四半期 3,606百万円 25年7月期 3,521百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年7月期	—	0.00	—	23.00	23.00
26年7月期	—	0.00	—	—	—
26年7月期(予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年7月期の連結業績予想(平成25年8月1日～平成26年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,179	9.8	463	5.6	456	0.3	286	1.0	67.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) コラムジャパン株式会社、除外 1社 (社名)

(注)詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年7月期3Q	4,250,000 株	25年7月期	4,250,000 株
----------	-------------	--------	-------------

- ② 期末自己株式数

26年7月期3Q	57 株	25年7月期	57 株
----------	------	--------	------

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年7月期3Q	4,249,943 株	25年7月期3Q	4,249,994 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日本銀行による金融政策を背景に、円安・株高の傾向が継続し、景気回復に明るい兆しが見られた反面、原材料価格の上昇や新興国経済の成長鈍化といった景気を下押しするリスクも存在し、先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループが属する小売・卸売業界におきましては、消費税率の引き上げを前に、耐久財に加えて日用品等についても駆け込み需要の動きがあったものの、4月以降にはその反動減の影響とともに、生活必需品の物価上昇に対する懸念もあり、消費者の生活防衛意識は根強く、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境のなか、当社グループは、お客様の豊かで潤いのある生活のサポートをミッションとした中期経営計画に基づき、特色のある商品やサービス品質の向上による差別化戦略の推進とともに、顧客開拓コストの効率化やグループシナジーの強化、M&Aの活用などにより、持続的な成長を支える経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

なお、第2四半期連結会計期間において、コラムジャパン株式会社の全株式を取得したことにより、第2四半期連結会計期間から同社を連結の範囲に含めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,617百万円（前年同期比9.6%増）、営業利益は315百万円（同30.0%増）、経常利益は329百万円（同29.8%増）、四半期純利益は186百万円（同31.6%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、売上高については、セグメント間取引の調整後の数値であり、営業利益については、セグメント間取引の調整前の数値であります。

(小売事業)

小売事業では、拡大を続けるEC市場での顧客開拓に注力したほか、一定期間ご注文をいただいていないお客様へのアプローチ方法を見直し、顧客の拡大及び深耕に取り組んでまいりました。また、リピート率の高い自社製造商品のサンプル配布とともに、秋の味覚、年始の福袋といった季節商品や、自然食品「半生いも切り」、健康飲料「酵素スムージー」などの新商品による売場の活性化に加え、消費税率の引き上げ前には、まとめ買い企画や大容量サイズの品揃えを強化し、駆け込み需要の取り込みに注力してまいりました。また、主に大手オンラインモールにおいて「ルイボスティー」の販売促進を強化することにより、モール内でのカテゴリーシェアの拡大を図っております。その他、商品券セール（商品券、切手・ハガキ等の手持ちの金券で買い物ができる企画）や下取りセール（手持ちの健康食品や化粧品の送付で買い上げ金額が割引される企画）を実施し他社との差別化に努めてまいりました。

この結果、売上高は3,527百万円（前年同期比0.4%減）となったものの、主に広告効率の改善により費用が圧縮され、営業利益は284百万円（同39.3%増）となりました。

(卸売事業)

卸売事業では、販売先である通信販売会社や小売店等に対し、各社のニーズに応じた商品や販促企画を提案するとともに、低カロリー食品「ぷるるん姫寒天コラーゲン美容雑炊」やフードアドバイザー城咲仁さんが開発に携わった万能調味料「漸（ぜん）」などの新たなオリジナル商品の投入により、他社との差別化に努めてまいりました。また、果汁を6カ月間かけて熟成させた「ザクロ酢」や料理研究家が選定した人気商品「韓国宮廷料理参鶏湯」、生活雑貨では、北欧寝具ダンフィルシリーズ「フィバルピロー」やキッチン用品のルクエシリーズ「スチームケース」など、主力商品の販売促進とともに欧州ブランドの育成に注力してまいりました。

この結果、売上高は1,089百万円（前年同期比62.5%増）、営業利益は32百万円（同15.7%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

①資産

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、4,425百万円（前連結会計年度末比96百万円増）となりました。

流動資産の増加（同94百万円増）の主な要因は、有価証券が減少（同327百万円減）したものの、たな卸資産が増加（同201百万円増）、現金及び預金が増加（同200百万円増）したことによるものであります。

固定資産の増加（同2百万円増）の主な要因は、のれんが減少（同46百万円減）したものの、保険積立金が増加（同66百万円増）したことによるものであります。

②負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、818百万円（前連結会計年度末比11百万円増）となりました。

流動負債の減少（同13百万円減）の主な要因は、未払金が増加（同34百万円増）、賞与引当金が増加（同31百万円増）したものの、未払法人税等が減少（同75百万円減）したことによるものであります。

固定負債の増加（同25百万円増）の主な要因は、長期末払金が増加（同19百万円増）したことによるものであります。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、3,606百万円（前連結会計年度末比84百万円増）となりました。

純資産の増加の主な要因は、四半期純利益の計上等により利益剰余金が増加（同88百万円増）したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は81.5%（前連結会計年度末は81.4%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年3月5日の「平成26年7月期第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

（連結の範囲の重要な変更）

第2四半期連結会計期間において、コラムジャパン株式会社の全株式を取得したことにより、第2四半期連結会計期間から、同社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,006,937	1,207,875
受取手形及び売掛金	612,857	629,176
有価証券	659,867	332,077
たな卸資産	342,275	544,100
その他	74,727	77,036
貸倒引当金	△11,390	△10,676
流動資産合計	2,685,275	2,779,589
固定資産		
有形固定資産	321,315	329,323
無形固定資産		
のれん	260,896	214,856
その他	143,769	114,134
無形固定資産合計	404,666	328,990
投資その他の資産		
投資有価証券	562,028	557,070
その他	358,570	433,489
貸倒引当金	△3,004	△3,143
投資その他の資産合計	917,594	987,416
固定資産合計	1,643,576	1,645,730
資産合計	4,328,851	4,425,320
負債の部		
流動負債		
買掛金	154,442	157,861
未払法人税等	117,347	42,136
賞与引当金	31,392	63,260
役員賞与引当金	15,060	15,400
ポイント引当金	22,931	14,490
その他	231,579	265,641
流動負債合計	572,753	558,789
固定負債		
退職給付引当金	32,850	38,478
その他	201,283	221,237
固定負債合計	234,133	259,715
負債合計	806,886	818,505
純資産の部		
株主資本		
資本金	356,625	356,625
資本剰余金	326,625	326,625
利益剰余金	2,797,932	2,886,903
自己株式	△34	△34
株主資本合計	3,481,147	3,570,118
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40,817	36,696
その他の包括利益累計額合計	40,817	36,696
純資産合計	3,521,965	3,606,815
負債純資産合計	4,328,851	4,425,320

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年8月1日 至 平成25年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年8月1日 至 平成26年4月30日)
売上高	4,213,204	4,617,204
売上原価	1,398,883	1,611,578
売上総利益	2,814,320	3,005,625
販売費及び一般管理費	2,571,589	2,690,167
営業利益	242,731	315,458
営業外収益		
受取利息	2,999	2,384
受取配当金	1,420	1,469
為替差益	2,356	238
保険配当金	48	2,621
その他	4,577	7,948
営業外収益合計	11,403	14,662
営業外費用		
支払利息	85	8
支払手数料	—	296
その他	86	220
営業外費用合計	172	525
経常利益	253,962	329,595
特別利益		
投資有価証券売却益	—	3,073
受取補償金	6,196	—
特別利益合計	6,196	3,073
特別損失		
固定資産売却損	2,698	—
固定資産除却損	464	—
投資有価証券売却損	—	1
特別損失合計	3,163	1
税金等調整前四半期純利益	256,995	332,667
法人税等	115,095	145,947
少数株主損益調整前四半期純利益	141,899	186,719
四半期純利益	141,899	186,719

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年8月1日 至平成25年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年8月1日 至平成26年4月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	141,899	186,719
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	52,273	△4,121
その他の包括利益合計	52,273	△4,121
四半期包括利益	194,172	182,598
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	194,172	182,598
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループでは、独立した経営単位である当社及び連結子会社が、当社グループの経営方針のもと、それぞれの事業における包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、当社並びに個々の連結子会社を最小単位とした事業セグメントから構成されており、また、経済的特徴及び商品・サービスの要素が概ね類似する複数の事業セグメントを集約し、「小売事業」及び「卸売事業」の2つを報告セグメントとしております。

「小売事業」では、主に健康茶、健康食品、化粧品を一般消費者に通信販売しております。

「卸売事業」では、主に生活雑貨、食品を通信販売会社や小売店等に販売しております。

II 前第3四半期連結累計期間(自平成24年8月1日 至 平成25年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	小売事業	卸売事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,542,787	670,416	4,213,204	—	4,213,204
セグメント間の内部売上高 又は振替高	140	5,371	5,512	△5,512	—
計	3,542,928	675,787	4,218,716	△5,512	4,213,204
セグメント利益	204,074	38,751	242,826	△95	242,731

(注) 1. セグメント利益の調整額△95千円は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「卸売事業」セグメントにおいて、平成24年11月1日付で株式会社アペックスの株式取得を行い、新たに連結子会社としたことにより、306,937千円増加しております。

Ⅲ 当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年8月1日 至 平成26年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	小売事業	卸売事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,527,497	1,089,707	4,617,204	—	4,617,204
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,034	15,858	16,892	△16,892	—
計	3,528,531	1,105,566	4,634,097	△16,892	4,617,204
セグメント利益	284,218	32,657	316,876	△1,418	315,458

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,418千円は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 第2四半期連結会計期間において、コラムジャパン株式会社の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日と比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「卸売事業」セグメントにおいて282,365千円増加しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。